

巨大彫刻 さとうりさ 『プレイヤー・エイリアン(player alien)』を、 川上村立川上中学校(長野県)に移設

スパイラルは、2005年に「自然の叡智」をテーマに愛知県で行われた国際博覧会「愛・地球博」アートプログラム事業をプロデュースしました。アートプログラムのために制作・展示された、アーティスト・さとうりさの彫刻作品『player alien』(高さ: 約6m)を、川上村立川上中学校(長野県)の新校舎敷地内に移設致しました。(2009年3月15日竣工)

『player alien』は、心の部分にポツカリと穴の開いた本体、その穴に収まる小さなピンク色のパーツ、それら2つで構成された作品です。「自分の何かが欠けていても、この先何かを欠いてしまうとしても、また、欠いてしまった人を目の前にしても、いつでも、動じずゆったりと立っていたい。」人間という不完全で孤独な動物の生きざまと葛藤をこの作品で形にしています。自分自身を肯定する、その存在を認識することからすべて始まるというメッセージが込められています。万博で多くの人々を魅了したこの作品は、多感な毎日過ごす生徒たちの元に舞台を移し今後彼らの日常を見守ることとなります。

本プロジェクトのコーディネーションと監修を行った建築家・原田鎮郎氏によれば、「大自然に囲まれて力強く立ち上がった姿と再会した時は、万博のにぎやかな環境の中に立っていた時と違って、ひと回り大きく成長した感じを受けました。カナダ館の階段に使われていた重厚な木材も中学校の建築において再び命を与えられることになり、まさに愛・地球博のテーマ“自然の叡智”のリユースの精神が川上村に引き継がれたと思います。」

以前より原田氏と交流のあった川上村藤原忠彦村長は、万博会場で作品に出会い、博覧会協会との交渉やコンペを経て今回の移設を実現しました。「作品のメッセージが多感で揺れ動く中学生生徒の心を元気づけるであろうと感銘を受け、中学校への設置がふさわしいと思いました。生徒や村民の理解も俄かには得られないこともありましたが、アーティスト



撮影:原田鎮郎氏

やキュレーターの方から直接話を聞くことで、メッセージの意図は確実に広がっています。生徒のみならず村民にも伝わり、将来にも継続して精神が語り継がれることを期待します。」と村長は話しています。

スパイラルは、パブリックアートプログラムをはじめとする館外のプロデュース事業を通して、アートを社会に機能させるプロジェクトを実践しています。

作品概要

作家名: さとうりさ(Risa Sato)
作品名: プレイヤー・エイリアン(player alien)
制作年: 2005年
寄贈: さとうりさ
受贈: 長野県川上村教育委員会
監修: 原田鎮郎
制作: 株式会社キャラクター工房
調整管理: スパイラル/株式会社ワコールアートセンター
竣工: 2009年3月

掲載や取材に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。
スパイラル/株式会社ワコールアートセンター 広報部 清水、加藤
TEL 03-3498-5605 FAX 03-3498-7848 〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23
E-mail press@spiral.co.jp WEB www.spiral.co.jp

【2005 年 愛・地球博

アートプログラム 『幸福のかたち』】

スパイラル／株式会社ワコールアートセンター チーフキュレーター岡田勉が、「幸福のかたち」をテーマにキュレーションを担当。

1970 年以降生まれの国内外の作家 7 名、さとうりさ、名和晃平、澤田知子（日本）、ハン・ジン＝スー（韓国）、イヴァナ・ファルコーニ（スイス）、フェデリコ・エレロ（コスタリカ）、テア・マキパー（フィンランド）の作品を展開した。

【川上中学校 新校舎】

約2万6000㎡の敷地に、延べ床面積約6500㎡の教室棟・体育館・音楽棟など5つの建物が渡り廊下などで結ばれる。地元の山林から切り出されたカラマツ約7000本分の木材がふんだんに使用された校舎は、木のぬくもりが溢れる空間。愛・地球博カナダ館に使用されていた階段が、原田氏の設計により教室棟部分の吹き抜けホールにリユースされた。

【原田鎮郎 プロフィール】

工学修士／一級建築士

愛知県立芸術大学客員教授

上海同济大学客員教授

国際建築アカデミー（IAA）プロフェッサー

早稲田大学、日本大学非常勤講師

1943年 東京に生れる

1966年 早稲田大学理工学部建築学科卒業

1968年 同大学院理工学部吉阪研究室修士課程修了

1968～75年 （株）菊竹清訓建築設計事務所 在職

・ハワイ海上都市計画

・東京湾海上都市計画

・パサディナハイツ

1979年 （株）環境システム研究所を設立 現在に至る
建築設計と共に社会システム、人工地盤システム
エネルギーシステム、新交通システム、
福祉環境システムの開発に従事

2001年 2005年日本国際博覧会チーフプロデューサー
に就任。会場マスタープラン策定、グローバル・
ループ設計

【さとうりさ プロフィール】

「りさ・キャンペーン」という作品を使ったパフォーマンスを国内外で実施。独特のコミュニケーション手法が注目される。

HP: www.risacan.com/

1972年 東京生まれ

1999年 東京芸術大学大学院修了

主な賞歴

2000年 フィリップモリスアートアワード2000 グランプリ

主な個展

2000年 良い友 （Pepper's Loft Gallery）

Risa Campaign for 打ち合わせ （SPIRAL、東京）

Risa Campaign from the window （SPIRAL、東京）

2001年 サトゴシガン （Pepper's Loft Gallery）

サトゴシガン写真展

（谷中art- Link 藤の間ギャラリー）

2003年 ゆっくり危険な遊戯（銀座 Pepper's Loft Gallery）

さとうりさ個展

（Galerie Jean-Luc&Takako RICHARD、パリ）

2004年 2match （リトルモアギャラリー、青山）